

## 第三者意見

第3回の発刊を迎えたTHK「CSRレポート」を拝読いたしました。分かり易い構成、読者が理解しやすい言葉、適切な文字サイズ、的確な図表等、綿密な編集作業がなされていることがわかるレポートです。さて、私がTHKと関わり合いをもったのは10年ほど前(2000年3月)に遡ります。当レポートの責任者でもある白井常務(当時は技術本部長)と精密工学会学術講演会場でお会いしたのが発端でした。その後、共同研究を行ったり、研究分科会の会員企業になっていただいたり等、おつきあいしています。

10年前のTHKの年間売り上げは1,000億円程度であったと聞いていますが、主としてLMガイドとボールねじの生産を行っているTHKが大手工作機械メーカーとほぼ同等の2,000億円(2007年度)の売り上げを達成するようになるろうとは、当時はとても考えられないことでした。このような急成長と生産工場のグローバル化が成功している理由は何処にあるのでしょうか。それは、THKの企業理念「世にない新しいものを提案し、世に新しい風を吹き込み、豊かな社会作りに貢献する(本号トップメッセージより)」にあると思われます。より具体的には、「(時代に一步先駆けて)ユーザーが必要とするであろう精密部品や製品を、省エネルギーをコンセプトに開発し、世の中に出してきた」ことだと思います。ユーザーのニーズを先取りして開発された新技術については、「社会に付加価値を届けるTHKの技術開発(P.10-11)」の項

に8条LMガイドやボールリテーナ入りボールねじ等が取り上げられています。技術者の独りよがりではなく、ユーザーが本当に満足する製品を生み出すことを目標に設立されたTHKテクノセンターの存在は、より高い省エネルギー性を有し、高精度で信頼性に富んだ製品の開発に大きく貢献していると思われま。

THKが生産拠点を日本、米国、欧州およびアジアへと拡大できてきたのは、摩擦の低減と省エネルギーに優れた製品の開発に成功したことはもとより、前述の優れた技術開発力(含む、生産技術力)を前提に「企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility, CSR)」を正しく認識し、そのCSRの下に、しっかりとしたマネジメント体制、社会との関わり(含む社会貢献)、環境との調和を図ってきたからに他ならないでしょう。当CSRレポート(2009版)には、企業の社会的責任を果たすための方策と共に、得られた結果や成果が分かり易く記述されていますが、特に「環境との調和」に対するTHKの意気込みが「環境負荷の継続的な低減と自然環境の維持・改善を図るための環境基本方針(P.29)」からも強く感じられるのは嬉しい限りです。

寺町社長のメッセージの中に「省エネルギータイプの生産機械の開発や自然エネルギーの導入等も積極的に行っていく必要があります」とありますが、来年度のCSRレポートには上記が実施例として取り上げられることを期待しております。



日本工業大学工学部ものづくり環境学科

教授 工学博士 鈴木 清 様

1946年生まれ。1962年～1966年日立製作所川崎工場。1968年東京理科大学第2理学部物理学科卒業。1986年学位論文「びびり振動切削法による金属短繊維の製造に関する研究」東京大学(工学博士)。1970年東京大学生産技術研究所文部技官。1975年東京大学生産技術研究所文部教官助手。1988年東京大学生産技術研究所文部教官講師。1988年日本工業大学工学部システム工学科助教授。1993年日本工業大学工学部システム工学科教授。2001～2003年(社)砥粒加工学会「副会長、理事(出版部会長)」。2001年ICAT(International Committee of Abrasive Technology)名誉委員長。現在(社)精密工学会評議委員、(社)砥粒加工学会評議委員。

■【受賞】1979年昭和58年度注目発明選定賞(科学技術庁)。1986年大河内記念技術賞(大河内記念会)。1994年(社)砥粒加工学会「奨励賞」。2000年(社)精密工学会「高城賞」。2003年先端加工学会「論文賞」。2005年(社)電気加工学会 2004年度全国大会賞。2005年(社)砥粒加工学会「論文賞」。2005年(社)砥粒加工学会「熊谷賞」。2005年(財)工作機械技術振興財団 工作機械技術振興賞(論文賞)。2007年Asian Electrical Machining Symposium '07, An Award for the Best Paper(論文賞)。2007年(社)砥粒加工学会「熊谷賞」。2007年(財)工作機械技術振興財団 工作機械技術振興賞(論文賞)。2007年(社)電気加工学会論文賞。

## 編集後記

3回目のCSRレポート発行となりました。THKの経営理念を支える技術開発に焦点をあてた特集、ステークホルダーに信頼されるコーポレートガバナンスやコンプライアンス体制の構築、人財と位置付ける従業員の能力を活かす制度、地域社会活動への積極的な参加、さらに環境配慮製品の開発や地球温暖化防止への積極的な取り組みも分かりやすくお伝えできるように努めました。また昨年に引き続き、グローバルに活躍しているTHKの姿を皆様にお伝えするために、THKとご関係のある方や国内・海外従業員の声を取り入れました。

今後もCSR活動の推進や環境保護活動を通じて、全社一丸となったさらなる取り組みを行い、皆様にお伝えする情報の質を高めてまいります。

最後に、今回のレポートが読者の皆様にどのように受け取られたのかご意見を賜りたく存じます。皆様からの貴重なご意見は、今後のCSR活動への取り組みやレポート作成の参考にさせていただきます。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご感想を同封のアンケート用紙にてお寄せいただければ幸いです。

CSRプロジェクト事務局  
(次回発行予定2010年9月)